

(様式第10)

琉大医総第316号  
平成27年10月2日

厚生労働大臣 殿

琉球大学医学部附属病院長  
藤田次郎

### 琉球大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3第の規定に基づき、平成26年度の業務について報告します。

記

#### 1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
氏 名	国立大学法人琉球大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

#### 2 名 称

琉球大学医学部附属病院
-------------

#### 3 所在の場所

〒903-0215 沖縄県中頭郡西原町字上原207番地	電話(098)895-3331
--------------------------------	-----------------

#### 4 診療科名

##### 4-1 標榜する診療科名の区分

- ① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜  
② 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

##### 4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有	・	(無)
内科と組み合わせた診療科名等			
1	2	3	4
8	9	10	11

診療実績

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

## (2) 外科

外科							(有)・無
外科と組み合わせた診療科名							
1 心臓血管外科	2	3	4	5	6	7	
8	9	10	11	12	13	14	
診療実績							

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

## (3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科	⑦産婦人科
⑧産科	⑨婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科	⑬放射線診断科	
14放射線治療科	15麻酔科	16救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

## (4) 歯科

歯科							(有)・無
歯科と組み合わせた診療科名							
1 歯科口腔外科	2	3	4	5	6	7	
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

## (5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 呼吸器科	2 消化器科	3 循環器科	4 神経科	5 病理診断科	6 形成外科	
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

## 5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
40床	6床	4床	0床	550床	600床

## 6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成 27 年 10 月 1 日現在)

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医 師	385人	5.7人	390.7人	看護補助者	78人	診療エックス線技師	人
歯科医師	17人	1.3人	18.3人	理学療法士	10人	麻酔臨床検査技師	38人
薬剤師	31人	0人	31.0人	作業療法士	4人	検査衛生検査技師	人
保健師	人	人	人	視能訓練士	4人	その他の	人
助産師	23人	0人	23.0人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧師	人
看護師	578人	19.3人	597.3人	臨床工学士	19人	医療社会事業従事者	人
准看護師	0人	0.7人	0.7人	栄養士	人	その他の技術員	31人
歯科衛生士	2人	0人	2.0人	歯科技工士	人	事務職員	197人
管理栄養士	9人	0人	9.0人	診療放射線技師	31人	その他の職員	44人

(注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

## 7 専門の医師数

(平成 27 年 10 月 1 日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	12 人	眼科専門医	9 人
外科専門医	22 人	耳鼻咽喉科専門医	15 人
精神科専門医	4 人	放射線科専門医	2 人
小児科専門医	13 人	脳神経外科専門医	7 人
皮膚科専門医	4 人	整形外科専門医	17 人
泌尿器科専門医	7 人	麻酔科専門医	16 人
産婦人科専門医	15 人	救急科専門医	3 人
合 計			146 人

(注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 1 位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

## 8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1 日当たり平均入院患者数	458 人	14 人	472 人
1 日当たり平均外来患者数	1,112 人	60 人	1,172 人
1 日当たり平均調剤数			801 剤
必要医師数			112.9 人
必要歯科医師数			5 人
必要薬剤師数			16 人
必要(准)看護師数			278 人

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

## 9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要		
			病床数	心電計	有・無
集中治療室	185.42m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	8床	心細動除去装置	有・無
			人工呼吸装置	ペースメーカー	有・無
			その他の急救蘇生装置		有・無
無菌病室等	〔固定式の場合〕 〔移動式の場合〕	床面積 台数	58.61m <sup>2</sup> 0台	病床数 (無菌テント等)	6床
医薬品情報管理室	〔専用室の場合〕 〔共用室の場合〕	床積 共用する室名	m <sup>2</sup>	医薬品情報室・薬剤部員室	
化学検査室	358.97m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	全自动蛍光免疫測定装置	
細菌検査室	144.00m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	全自动迅速同定感受性測定装置	
病理検査室	162.00m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	脱水・脱脂パラフィン浸透装置	
病理解剖室	62.53m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	SL写真撮影装置	
研究室	6101.00m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	HSオールインワン蛍光顕微鏡システム	
講義室	525.91m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	収容定員	374人
図書室	807.00m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	蔵書数	119,000冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

## 10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成26年4月1日～平成27年3月31日	
紹介率	76.9%	逆紹介率	57.8%
A：紹介患者の数		11,449人	
B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		9,323人	
C：救急用自動車によって搬入された患者の数		946人	
D：初診の患者の数		16,124人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	4人
抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	10人
末梢血幹細胞による血管再生治療	0人
前眼部三次元画像解析	192人
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	0人
硬膜外自家血注入療法	3人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示  
第二百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

## (様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 3 その他の高度の医療

医療技術名	アミノレブリン酸による術中蛍光診断	取扱患者数	72人
当該医療技術の概要			
アミノレブリン酸は、悪性神経膠腫や髓膜腫では、細胞内に取り込まれた後、ミトコンドリア内にてプロトポルフィリンIXへと代謝され、腫瘍細胞内に選択的に蓄積する。プロトポルフィリンIXは、光高感受性物質であり、青色光線(400-410nm)により励起されると、赤色発光するため、術中に腫瘍と正常組織との識別が可能となり、摘出率の向上及び予後の改善に重要な役割を果たしている。			
医療技術名	画像誘導装置を用いた脳腫瘍摘出術	取扱患者数	102人
当該医療技術の概要			
脳腫瘍摘出術中にニューロナビゲーションシステムを用いて頭蓋内病変の位置と周囲神経線維、脳神経、主要血管の位置を同定し、より安全で確実な病変の摘出と神経機能温存を可能にする技術である。			
医療技術名	術中ICG蛍光血管撮影	取扱患者数	76人
当該医療技術の概要			
術中にインドシアングリーン(ICG)を静脈内投与し、赤外線による蛍光により頭蓋内血管を同定する。脳腫瘍における栄養血管の評価、周囲静脈系の評価に有効である。 また、血行再建術やクリッピング術において、処置の精度、血管温存の確認などの評価が術中に可能であり、安全で質の高い手術を行うための技術である。			
医療技術名	術中神経機能モニタリング	取扱患者数	101人
当該医療技術の概要			
術中に誘発電位や筋電図を記録することにより、神経機能を直接評価しつつ手術を行うことが可能となる技術である。運動誘発電位、脳神経モニタリング、聴性脳幹反応、体性感覚誘発電位、視覚誘発電位があり神経機能温存のために有用である。			
医療技術名	ロボットスーツを用いたニューロリハビリテーション	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要			
身体に装着することによって、身体機能を補助・增幅・拡張することができるサイボーグ型ロボットHAL(Hybrid Assistive Limb)を使用したリハビリテーションである。 脳腫瘍や脳卒中による運動機能障害を有する患者の急性期リハビリテーションに有用である。			
医療技術名	経頭蓋直流電気刺激法を用いたニューロリハビリテーション	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
tDCS(経頭蓋直流電気刺激法)は、障害脳の頭皮上に陽極電極、反対側に陰極電極を設置して、1mAの直流電流を用いて10-30分間刺激を行う電気刺激法であり、障害脳の興奮性シグナルを増加させ、健側脳の過活動を抑制することで、大脳半球間の不均衡を修正し、脳の可塑的変化を促進すると考えられてる装置である。脳腫瘍、脳卒中、頭部外傷による機能障害を有する患者の急性期リハビリテーションに有用である。			
医療技術名	一酸化窒素吸入療法(NO吸入)	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
NO吸入療法は、新生児の重症呼吸障害、遷延性肺高血圧症に対する治療効果が認められる。人工換気中に、呼吸回路にガス供給回路を組み入れてNOガスを肺に投与する。肺胞血管平滑筋の弛緩作用をもち、肺胞血管拡張による換気血流不均衡を是正する。			
医療技術名	新生児低体温療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
新生児の低酸素性虚血性脳症に対して、クーリングキャップ、クーリングパットを用いて体温を約34°Cに保ち脳神経保護効果をもたらす。			

医療技術名	体外式膜型人工肺(ECMO)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
新生児の重症呼吸循環障害に対する体外式膜型人工肺(ECMO)を用いた生命維持法。肺または心機能低下が可逆的な場合に、VA-ECMO(心、肺機能代替)VV-ECMO(肺機能代替)のいずれかを行い救命を目指す。			
医療技術名	バルーン肺動脈拡張術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
慢性血栓塞栓性肺高血圧に対するカテーテル療法 (器質化血栓による肺動脈の狭窄や閉塞をバルーンで拡張し、血流を改善させることで肺動脈圧を低下させ、肺高血圧を治療する)			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

## 高度の医療の提供の実績

## 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱患者数	疾 患 名	取扱患者数
・ベーチェット病	42人	・膿疱性乾癥	25人
・多発性硬化症	33人	・広範脊柱管狭窄症	7人
・重症筋無力症	41人	・原発性胆汁性肝硬変	58人
・全身性エリテマトーデス	202人	・重症急性胰炎	2人
・スモン	0人	・特発性大腿骨頭壊死症	51人
・再生不良性貧血	13人	・混合性結合組織病	25人
・サルコイドーシス	51人	・原発性免疫不全症候群	3人
・筋萎縮性側索硬化症	9人	・特発性間質性肺炎	8人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	135人	・網膜色素変性症	56人
・特発性血小板減少性紫斑病	33人	・プリオント病	2人
・結節性動脈周囲炎	19人	・肺動脈性肺高血圧症	10人
・潰瘍性大腸炎	177人	・神経線維腫症	13人
・大動脈炎症候群	21人	・亜急性硬化解性全脳炎	7人
・ビュルガー病	47人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	4人
・天疱瘡	48人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	10人
・脊髄小脳変性症	10人	・ライソーム病	8人
・クローン病	167人	・副腎白質ジストロフィー	1人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1人
・悪性関節リウマチ	7人	・脊髄性筋委縮症	2人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	76人	・球脊髄性筋委縮症	0人
		・慢性炎症性脱髓性多発神経炎	11人
・アミロイドーシス	9人	・肥大型心筋症	2人
・後縦靭帯骨化症	43人	・拘束型心筋症	0人
・ハンチントン病	2人	・ミトコンドリア病	6人
・モヤモヤ病(ウィルス動脈輪閉塞症)	22人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	4人
・ウェグナー肉芽腫症	8人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	2人
・特発性拡張型(うつ血型)心筋症	54人	・黄色靭帯骨化症	5人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリーブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	17人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	107人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人		

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ハイリスク妊娠管理加算
・歯科外来診療環境体制加算	・ハイリスク分娩管理加算
・特定機能病院入院基本料(一般:7:1)	・退院調整加算
・特定機能病院入院基本料(結核:7:1)	・救急搬送患者地域連携紹介加算
・特定機能病院入院基本料(精神:13:1)	・救急搬送患者地域連携受入加算
・臨床研修病院入院診療加算(医科・歯科)	・データ提出加算2
・救急医療管理加算	・地域歯科診療支援病院入院加算
・超急性期脳卒中加算	・特定集中治療室管理料3
・妊産婦緊急搬送入院加算	・新生児特定集中治療室管理料1
・診療録管理体制加算1	・新生児治療回復室入院医療管理料
・急性期看護補助体制加算(25対1看護補助者 5割未満)	・小児入院医療管理料2(プレイルーム加算)
・看護補助加算2(精神病棟)	
・看護職員夜間配置加算	
・療養環境加算	
・重症者等療養環境特別加算	
・無菌治療室管理加算1	
・無菌治療室管理加算2	
・精神科応急入院施設管理加算	
・精神科身体合併症管理加算	
・摂食障害入院医療管理加算	
・がん診療連携拠点病院加算	
・栄養サポートチーム加算	
・医療安全対策加算1	
・感染防止対策加算1(感染防止対策地域連携加算)	
・患者サポート体制充実加算	
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・検体検査管理加算(Ⅰ)
・植込型除細動器移行期加算	・検体検査管理加算(IV)
・高度難聴指導管理料	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・がん性疼痛緩和指導管理料	・植込型心電図検査
・がん患者指導管理料1	・時間内歩行試験
・がん患者指導管理料2	・ヘッドアップティルト試験
・がん患者指導管理料3	・皮下連続式グルコース測定
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・長期継続頭蓋内脳波検査
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・光トポグラフィー
・糖尿病透析予防指導管理料	・神経学的検査
・院内トリアージ実施料	・補聴器適合検査
・外来リハビリテーション診療料	・内服・点滴誘発試験
・外来放射線照射診療料	・センチネルリンパ節生検
・ニコチン依存症管理料	・画像診断管理加算2
・地域連携診療計画管理料	・遠隔画像診断
・がん治療連携計画策定料	・ポジトロン断層撮影又はポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・がん治療連携管理料	・CT撮影及びMRI撮影
・肝炎インターフェロン治療計画料	・冠動脈CT撮影加算
・薬剤管理指導料	・心臓MRI撮影加算
・医療機器安全管理料1	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・医療機器安全管理料2	・外来化学療法加算1
・医療機器安全管理料(歯科)	・無菌製剤処理料
・歯科治療総合医療管理料	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算)
・持続血糖測定器加算	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算)
・造血器腫瘍遺伝子検査	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算)
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施 設 基 準 の 種 類	施 設 基 準 の 種 類
・がん患者リハビリテーション料	・植込型補助人工心臓(非拍動流型)
・集団コミュニケーション療法料	・経皮的大動脈遮断術
・歯科口腔リハビリテーション料2	・ダメージコントロール手術
・医療保護入院等診療料	・腹腔鏡下肝切除術
・一酸化窒素吸入療法	・腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除術
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算(通則4)	・同種死体腎移植術
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・生体腎移植術
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・人工尿道括約筋植込・置換術
・縦内障手術(縦内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・網膜再建術	・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・胃瘻造設術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・輸血管理料Ⅱ
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、 ・下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・乳がんセンチネルリンパ節加算1および2	・歯周組織再生誘導手術
・経皮的冠動脈形成術	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・麻酔管理料(Ⅰ)
・経皮的冠動脈ステント留置術	・麻酔管理料(Ⅱ)
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・放射線治療専任加算
・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術(及び経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの))	・外来放射線治療加算
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・高エネルギー放射線治療
・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術	・強度変調放射線治療(IMRT)
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び ・両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・直線加速器による定位放射線治療
・補助人工心臓	・保険医療機関間の連携による病理診断

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

## 8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	・病理部症例検討会 8回/年 ・検査部症例検討会 2~3回/週
剖 檢 の 状 況	剖検症例数 18例 / 剖検率 9.70%

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
勤労者の客観的眠気の評価と脳機能に及ぼす影響の検討	菅原麻世	検査・輸血部	492,000	(補)委 日本学術振興会 科研費
血小板活性抗原の発現と出血傾向との関連性について	名護珠美	検査・輸血部	400,000	(補)委 日本学術振興会 科研費
沖縄県で分離される市中感染型メチシリン耐性黄色ブドウ球菌の遺伝学的特性の解析	宮城郁乃	検査・輸血部	600,000	(補)委 日本学術振興会 科研費
遅発性脊髄障害とDセリン～ノックアウトマウスを用いた研究～	渕上竜也	集中治療部	1,560,000	(補)委 日本学術振興会 科研費
加齢にともなう排尿障害への早期薬物リハビリテーション介入	宮里実	腎泌尿器外科	730,756	(補)委 日本学術振興会 科研費
脳梗塞におけるNO合成酵素系の役割の解明と次世代治療戦略の確立	久保田陽秋	麻酔科	1,300,000	(補)委 日本学術振興会 科研費
頭頸部扁平上皮癌におけるリゾフォスファチジン酸経路：新規非EDG型受容体の意義	又吉宣	耳鼻咽喉科	1,764,228	(補)委 日本学術振興会 科研費
宮古島に多発するカポジ肉腫とHHV8潜在感染率の疫学的調査と輸血の安全性について	林健太郎	皮膚科	2,883,392	(補)委 日本学術振興会 科研費
遅発性脊髄障害にToll様受容体は関与しているか？	野口信弘	手術部	1,690,000	(補)委 日本学術振興会 科研費
多価不飽和脂肪酸がヒト卵子の受精・胚発生能に及ぼす影響について	銘苅桂子	周産母子センター	1,527,320	(補)委 日本学術振興会 科研費
SERS法を用いた大腸癌早期診断法の確立	金城達也	第一外科	1,490,280	(補)委 日本学術振興会 科研費
マウス全脳虚血後遅発性神経細胞死に対する硫化水素吸入療法の効果	安部真教	麻酔科	1,950,000	(補)委 日本学術振興会 科研費

小計 12件

ヒト乳頭腫ウイルス 関連 頭頸部癌における樹状細胞を用いた新規ワクチン療法の開発	上原貴行	耳鼻咽喉科	1,558,321	(補) 委	日本学術振興会 科研費
FMT-PETにおける悪性脳腫瘍への集積機序の解析	菅原健一	脳神経外科	361,872	(補) 委	日本学術振興会 科研費
ヒト未固定屍体を用いた顔面の血液還流経路の解析	清水雄介	形成外科	70,296	(補) 委	日本学術振興会 科研費
低酸素腫瘍細胞の酸素化直後における放射線治療効果を規定する機序の解明	合志清隆	高気圧治療部	165,000	(補) 委	日本学術振興会 科研費 (研究分担者)
アジア腎生検レジストリーの創設と最適な腎疾患治療を目指すアジア腎疾患コホート研究	井関邦敏	血液浄化療法部	650,000	(補) 委	日本学術振興会 科研費 (研究分担者)
口唇口蓋裂における口蓋化構音の鼻因腔閉鎖機能の関与に関する研究	西原一秀	歯科口腔外科	15,000	(補) 委	日本学術振興会 科研費 (研究分担者)
ハイリスク糖尿病患者における糖尿病葉、血糖管理と大血管障害発症に関するComparative Effectiveness Research	植田真一郎	臨床研究支援センター	7,800,052	(補) 委	厚生労働省 科研費
化学物質の安全性と発がん性リスク評価のための短・中期バイオアッセイ系の開発	吉見直己	病理部	16,742,000	(補) 委	厚生労働省 科研費
国内で流行するHIVとの薬剤耐性株の動向把握に関する研究	健山正男	第一内科	1,500,000	(補) 委	厚生労働省 科研費 (研究分担者)
HAM及びHTLV-1関連稀少難治性炎症性疾患の実態調査に基づく診療指針作成と診療基盤の構築をめざした政策研究	藤田次郎	第一内科	1,000,000	(補) 委	厚生労働省 科研費 (研究分担者)
緩和ケアセンターを軸としたがん疼痛の評価と治療改善の統合に関する多施設研究	増田昌人	がんセンター	1,600,000	(補) 委	厚生労働省 科研費 (研究分担者)
IgA腎症新規バイオマークターを用いた血尿の2字スクリーニングの試み	井関邦敏	血液浄化療法部	984,772	(補) 委	厚生労働省 科研費 (研究分担者)
特定健康診査による個人リスク評価に基づく、保健指導と連結した効果的な慢性腎臓病(CKD)地域医療連携システムの制度設	井関邦敏	血液浄化療法部	679,696	(補) 委	厚生労働省 科研費 (研究分担者)
原発性高脂血症に関する調査研究	太田孝男	小児科	300,000	(補) 委	厚生労働省 科研費 (研究分担者)

男性同性間のHIV感染予防対策とその介入効果の評価に関する研究	健山正男	第一内科	500,000	(補) 委	厚生労働省 科研費(研究分担者)
がんの診療科データベースとJapanese National Cancer Database(JNCDB)の運用と他がん登録との連携	戸板孝文	放射線科	200,000	(補) 委	厚生労働省 科研費(研究分担者)
HAMの革新的な治療法となる抗CCR4抗体療法の実用化に向けた開発	渡嘉敷崇	第三内科	500,000	(補) 委	厚生労働省 科研費(研究分担者)
特発性大腿骨頭壞死症の疫学調査・診断基準・重症度分類の改訂と診療ガイドライン策定を目指した大規模多施設研究	仲宗根哲	整形外科	120,000	(補) 委	厚生労働省 科研費(研究分担者)
成人の重症肺炎サーベイランス構築に関する研究	藤田次郎	第一内科	600,000	(補) 委	厚生労働省 科研費(研究分担者)
治験の実施に関する研究 [テムシロリムス]	青木陽一	産科婦人科	900,000	(補) 委	治験推進研究事業
革新的高次脳機能治療法の樹立	石内勝吾	脳神経外科	33,000,000	(補) 委	労災疾病臨床研究事業補助金
コルヒチンの抗動脈硬化薬としての適応拡大を目的とした橋渡し研究	植田真一郎	臨床研究支援センター	23,400,010	補 (委)	厚生労働科学研究委託事業
早期子宮頸がんに対する機能温存低侵襲手術の確立に関する研究	戸板孝文	放射線科	1,500,000	補 (委)	厚生労働科学研究委託事業(研究分担者)
門脈血行異常症に関する調査研究	國吉幸男	第二外科	700,000	補 (委)	厚生労働科学研究委託事業(研究分担者)
HAMの革新的な医薬品等の開発促進に関する研究	渡嘉敷崇	第三内科	800,000	補 (委)	厚生労働科学研究委託事業(研究分担者)
がん医療連携体制推進事業(地域統括相談支援センター事業)	増田正人	がんセンター	8,440,000	補 (委)	沖縄県
がん医療連携体制推進事業(がん患者支援モデル事業)	増田正人	がんセンター	3,000,000	補 (委)	沖縄県
沖縄県地域医療支援センター	國吉幸男	第二外科	9,308,518	補 (委)	沖縄県

平成26年度沖縄県地域医療支援センター運営事業	健山正男	第一内科	24,000,000	補 〔委〕	沖縄県
平成26年度HIV感染者等保健福祉相談事業	健山正男	第一内科	950,000	補 〔委〕	公益財団法人エイズ予防財団
実地研修(HIV感染者・エイズ患者の住宅医療・介護の環境整備事業)	健山正男	第一内科	80,000	補 〔委〕	公益財団法人エイズ予防財団
沖縄県エイズ拠点病院研修委託	健山正男	第一内科	690,000	補 〔委〕	沖縄県保健医療部健康長寿課
平成26年度HIV診療医師情報網支援事業	健山正男	第一内科	200,000	補 〔委〕	九州ブロックエイズ診療ネットワーク

合計 45件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

### 2 論文発表等の実績

#### (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Higa F	第一内科	Clinical evalution of high mobility group box 1 protein in Legionella pneumophila pneumonia.	Journal of Infection and Chemotherapy 2014 May;20(5):289–92.
2	Nakamura H	第一内科	The prevalence of airway obstruction among Japanese HIV-positive male patients compared with general population; a case-control study of single center analysis.	J Infect Chemother 2014 Jun;20(6):361–4.
3	Tamura J	第一内科	An inflammatory polyp in the colon caused by the migration of a Kirschner wire following fixation of a pelvic fracture.	Intern Med 2014;53(7):699–701.
4	Hokama A	光学医療診療部	Crescent-in -doughnut sign and telescope sign of intussusception in Peutz-Jeghers syndrome.	BMJ Case Reports 2014 Apr 17;2014. pii: bcr2014204516.
5	Hokama A	光学医療診療部	A fish bone perforation of the esophagus.	Endoscopy 2014;46 Suppl 1 UCTN:E216–7.
6	Hokama A	光学医療診療部	Colonic stricture with filiform polyposis in Crohn's disease.	BMJ Case Reports 2014 May 13;2014. pii: bcr2014204710.
7	Maeshiro T	第一内科	Acute focal bacterial nephritis.	BMJ Case Rep 2014 Jun 3;2014. pii: bcr2014205199.
8	Maeshiro T	第一内科	Diverticular colitis of the ascending colon preceding the onset of ulcerative colitis.	BMJ Case Rep. 2014 Jun 30;2014. pii: bcr2014204361.
9	Tamura J	第一内科	"Whirl sign" of primary small bowel volvulus.	West J Emerg Med. 2014 Jul;15(4):359–60.

小計 9件

10	Nakamura K	第一内科	Pure red cell aplasia induced by lamivudine without the influence of zidovudine in a patient infected with human immunodeficiency virus.	Intern Med 2014;53(15):1705-8.
11	Miyagi K	第一内科	Implementation of bronchoalveolar lavage using a high-flow nasal cannula in five cases of acute respiratory failure.	Respir Investig 2014 Sep;52(5):310-4.
12	Haranaga S	第一内科	Rhinovirus Pneumonia in a Patient Infected with HIV.	Intern Med 2014;53(17):2027-8. Epub 2014 Sep 1.
13	Maeshiro T	第一内科	The sandwich sign of mesenteric lymphoma. 2014 Sep-Dec;15(3-4):157-8.	Arab Journal of Gastroenterology 2014 Sep-Dec;15(3-4):157-8.
14	Kinjo T	第一内科	Orange Sputum in a Patient with Legionella pneumophila Pneumonia.	Intern Med 2014;53(17):2029-30. Epub 2014 Sep 1.
15	Haranaga S	第一内科	Intrathoracic Stalactite-like Lesion, Nodular-type Pleural Plaques.	Intern Med 2014;53(18):2173-4. Epub 2014 Sep 15.
16	Haranaga S	第一内科	Haloed Centrilobular Sign: Early Diagnosis of Airway-invasive Aspergillosis.	Intern Med. 2014;53(19):2259-60.
17	Hokama A	光学医療診療部	Tortoise shell-like mucosa of acute intestinal graft-versus-host-disease.	Clinical and Research in Hepatology and Gastroenterology 2014 Oct;38(5):543-4.
18	Haranaga S	第一内科	Variety and changeability of pulmonary aspergillosis.	Intern Med 2014;53(20):2409-10.
19	Hokama A	光学医療診療部	Inflammatory myoglandular polyps of the rectum.	Hong Kong Medical Journal 2015 Feb;21(1):84.e3-4.
20	Iseki K	血液浄化療法部	Epidemiology of dyslipidemia in chronic kidney disease.	Clinical and Experimental Nephrology April 2014, Volume 18, Issue 2, pp 185-188

小計 11件

21	Ishida A	第三内科	Age- and sex-related effects on ankle-brachial index in a screened cohort of Japanese: the Okinawa Peripheral Arterial Disease Study (OPADS).	European Journal of Preventive Cardiology 2014 Jun;21(6):712-8.
22	Kohagura K	第三内科	Hypertriglyceridemia accompanied by increased serum complement component 3 and proteinuria in non-nephrotic chronic kidney disease.	Clinical and Experimental Nephrology 2014 Jun;18(3):453-60.
23	Ishida A	第三内科	A high normal ankle-brachial index is associated with proteinuria in a screened cohort of Japanese: the Okinawa Peripheral Arterial Disease Study.	Journal of Hypertension 2014 Jul;32(7):1435-43; discussion 1443.
24	Inoue T	第三内科 血液净化療法部	Pivotal role of elevated heart rate in the cardiovascular continuum.	Journal of Cardiology 2014 Sep;64(3):240.
25	Miyagi T	第三内科	Interrelationship between brachial artery function and renal small artery sclerosis in chronic kidney disease.	Hypertension Research 2014 Sep;37(9):863-9.
26	Aizawa N	第三内科	Effective treatment of congestive heart failure using adaptive servo-ventilation in an end-stage renal disease patient on hemodialysis.	Internal Medicine 2014;53(18):2087-90.
27	Iseki K	血液净化療法部	Effects of sleepiness on survival in Japanese hemodialysis patients: J-DOPPS study.	Nephron Clinical Practice 2014;128(3-4):333-40.
28	Kohagura K	第三内科	Renal tubulointerstitial damage and salt-sensitive hypertension in chronic kidney disease: is the tubulointerstitium relevant beyond the glomerulus.	Hypertension Research 2015 Feb;38(2):102-3.
29	Iseki K	血液净化療法部	Control of hypertension and survival in haemodialysis patients.	Nephrology Volume 20, Issue 2, pages 49-54, February 2015
30	Nagahama K	第三内科	Associations between serum uric acid levels and the incidence of hypertension and metabolic syndrome: a 4-year follow-up study of a large screened cohort in Okinawa, Japan.	Hypertension Research 2015 Mar;38(3):213-8.
31	Karimata H	第一外科	Acute phlegmonous esophagitis as a rare but threatening complication of chemoradiotherapy: report of a case	Surgery Today 2014 Jun;44(6):1147-51.

小計 11件

32	Shimoji H	第一外科	Clinical and oncological effects of triplet chemotherapy followed by radical esophagectomy for resectable esophageal cancer associated with unfavorable prognostic factors	Surgery Today 2014 Jul;44(7):1273-81.
33	Kinjyo T	第一外科	Prognostic Significance of Simultaneous Presence of Histological and Immunohistochemical Metastasis to Lymph Nodes in Patients with Esophageal Cancer	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery 20(6): 951-960
34	Watanabe T	脳神経外科	Progression of cerebellar chronic encapsulated expanding hematoma during late pregnancy after gamma knife radiosurgery for arteriovenous malformation.	Surgical Neurology International 2014 Dec 30;5(Suppl 16):S575-9.
35	Yogi A	放射線科	Usefulness of the apparent diffusion coefficient (ADC) for predicting the consistency of intracranial meningiomas.	Clinical Imaging 2014 Nov-Dec;38(6):802-7.
36	Uehara F	整形外科	Fluorescence-guided surgery of retroperitoneal-implanted human fibrosarcoma in nude mice delays or eliminates tumor recurrence and increases survival compared to bright-light surgery.	PLoS One 2015 Feb 24;10(2):e0116865.
37	Okubo H	整形外科	Influence of different length of core suture purchase among suture row on the strength of 6-strand tendon repairs.	Hand Surgery 2015;20(1):19-24.
38	Uehara F	整形外科	Comparison of UVB and UVC on the DNA damage-response protein 53BP1 in human pancreatic cancer.	Journal of Cellular Biochemistry 2014 Oct;115(10):1724-8.
39	Uehara F	整形外科	Osteosarcoma cells enhance angiogenesis visualized by color-coded imaging in the <i>in vivo</i> Gelfoam® assay.	Journal of Cellular Biochemistry 2014 Sep;115(9):1490-4.
40	Tome Y	整形外科	3-dimensional tissue is formed from cancer cells <i>in vitro</i> on Gelfoam®, but not on Matrigel™.	Journal of Cellular Biochemistry 2014 Aug;115(8):1362-7.
41	Harding Y	産科婦人科	Radiotherapy- or radical surgery-induced female sexual morbidity in stages IB and II cervical cancer.	International Journal of Gynecological Cancer 24(4):800-805, May 2014.
42	Asato K	周産母子センター	Subchorionic hematoma occurs more frequently in <i>in vitro</i> fertilization pregnancy.	European Journal of Obstetrics and Gynecoogyl Reproductive Biology 2014 Oct;181:41- 小計 11件

43	Aoki Y	産科婦人科	Radical abdominal trachelectomy in IB1 cervical cancer at 17 weeks of gestation.	Case Report in Obstetrics and Gynecology 2014;2014:926502.
44	Yamaguchi S	皮膚科	Isolation of dermatophytes and related species from domestic fowl ( <i>Gallus gallus domesticus</i> ).	Mycopathologia 2014 Aug;178(1-2):135-43.
45	Kasuya Y	皮膚科	Glossal pigmentation caused by the simultaneous uptake of iron and tea.	European journal of dermatology 2014 Jul-Aug;24(4):493-4.
46	Miyagi T	皮膚科	Varicella zoster virus encephalopathy in a patient with psoriatic arthritis treated with anti-TNF $\alpha$ agents.	European journal of dermatology 2014 May-Jun;24(3):398-9.
47	Yamaguchi S	皮膚科	Primary cutaneous mucormycosis caused by <i>Mucor irregularis</i> in an elderly person.	Journal of Dermatology. 2015 Feb;42(2):210-4.
48	Miyazato M	泌尿器科	Early occlusion control of the intrapericardial inferior vena cava under femoral-femoral extracorporeal circulation using a technique to prevent pulmonary embolism during nephrectomy for renal cell carcinoma with tumor thrombus: two case	BMC research notes 2014 Oct 1;7:683.
49	Miyazato M	泌尿器科	Prevalence and risk factors for nocturia in an outpatient clinic.	LUTS: Lower Urinary Tract Symptoms Volume 6, Issue 3, pages 167-171, September 2014
50	Oshiro T	泌尿器科	Relationship between connexin43-derived gap junction proteins in the bladder and age-related detrusor underactivity in rats.	Life Sciences 2014 Oct 22;116(1):37-42.
51	Miyazato M	泌尿器科	Impact of prostate size on urinary quality of life scores after open radical prostatectomy: A single-center experience.	Scandinavian Journal of Urology 2014 Apr;48(2):146-52.
52	Kiyuna A	耳鼻咽喉科	Brain activity related to phonation in young patients with adductor spasmadic dysphonia.	Auris Nasus Larynx 2014 Jun;41(3):278-84.
53	Deng Z	耳鼻咽喉科	Epstein-Barr virus and human papillomavirus infections and genotype distribution in head and neck cancers.	PloS one 2014 Nov 18;9(11):e113702.

小計 11件

54	Zhang C	耳鼻咽喉科	Is there a higher prevalence of human papillomavirus infection in Chinese laryngeal cancer patients? A systematic review and meta-analysis.	European archives of oto-rhino-laryngology 2014 Oct 26. [Epub ahead of print]
55	Deng Z	耳鼻咽喉科	A comprehensive evaluation of human papillomavirus positive status and p16INK4a overexpression as a prognostic biomarker in head and neck squamous cell carcinoma.	International journal of oncology 2014 Jul;45(1):67-76.
56	Hasegawa M	耳鼻咽喉科	Prediction of concurrent chemoradiotherapy outcome in advanced oropharyngeal cancer.	International journal of oncology 2014 Sep;45(3):1017-26.
57	Ganaha.A	耳鼻咽喉科	Identification of two novel mutations in the NOG gene associated with congenital stapes ankylosis and symphalangism.	Journal of human genetics 2015 Jan;60(1):27-34.
58	Yamamoto S	眼科	Primary Open-Angle Glaucoma in a Population Associated with High Prevalence of Primary Angle-Closure Glaucoma The Kumejima Study.	Ophthalmology 2014 Aug;121(8):1558-65.
59	Kagawa S	精神科神経科	Relationship between plasma concentrations of lamotrigine and its early therapeutic effect of lamotrigine augmentation therapy in treatment-resistant depressive disorder.	Therapeutic drug monitoring 2014 Dec;36(6):730-3.
60	Nakamura A	精神科神経科	Lack of correlation between the steady-state plasma concentrations of aripiprazole and haloperidol in Japanese patients with schizophrenia.	Therapeutic drug monitoring 2014 Dec;36(6):815-8.
61	Suzuki T	精神科神経科	Effects of genetic polymorphisms of CYP2D6, CYP3A5, and ABCB1 on the steady-state plasma concentrations of aripiprazole and its active metabolite, dehydroaripiprazole, in Japanese patients with schizophrenia.	Therapeutic drug monitoring 2014 Oct;36(5):651-5.
62	Takara K	精神科神経科	Comorbid atypical autistic traits as a potential risk factor for suicide attempts among adult depressed patients: a case-control study.	Annals of General Psychiatry 2014 Oct 16;13(1):33.
63	Takara K	精神科神経科	Autism spectrum disorder among first-visit depressed adult patients: diagnostic clues from backgrounds and past history.	General Hospital Psychiatry 2014 Nov-Dec;36(6):737-42.
64	Nemoto K	精神科神経科	Effects of escitalopram on plasma concentrations of aripiprazole and its active metabolite, dehydroaripiprazole, in Japanese patients.	Pharmacopsychiatry 2014 May;47(3):101-4.

小計 11件

65	Kohshi K	高気圧治療部	Brain damage in commercial breath-hold divers.	PLoS One 2014 Aug 12;9(8):e105006.
66	Shiohira H	薬剤部	Increased plasma tacrolimus concentration after single intravenous administration of voriconazole: a case of drug-drug interaction.	Ryukyu medical journal 33 (1-3) 41-44, 2014
67	Morichika K	第二内科	The intractable intra-abdominal hemorrhage with unknown etiology in a patient with severe hemophilia A.	American Journal of Emergency Medicine 2015 Jan;33(1):129.e1-3.
68	Morichika K	第二内科	A rare case of septic pulmonary embolism caused by infection-associated catheter removal in a patient with Hodgkin's lymphoma.	Internal Medicine 2014;53(11):1215-20.
69	Kondo Y	救急医学	Extracorporeal membrane oxygenation therapy for pulmonary decompression illness.	Critical Care 2014 Jun 20;18(3):438.
70	Kise Y	第二外科	Directly measuring spinal cord blood flow and spinal cord perfusion pressure via the collateral network: correlations with changes in systemic blood pressure.	Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery 2015 Jan;149(1):360-6.
71	Fujita J	第一内科	Clinicopathological findings of four cases of pure influenza virus A pneumonia.	Internal Medicine Vol. 53 (2014) No. 12
72	Higa F	第一内科	Interleukin-17A in Legionella pneumonia: a retrospective study.	Japanese Journal of Infectious Diseases Vol.68 (2015) No. 2
73	Kinjo T	第一内科	Acute respiratory distress syndrome due to Strongyloides stercoralis infection in a patient with cervical cancer.	Internal Medicine Vol.54 (2015) No. 1
74	Kaname T	検査・輸血部	Heterozygous mutations in cyclic AMP phosphodiesterase-4D (PDE4D) and protein kinase A (PKA) provide new insights into the molecular pathology of acrodysostosis.	Cellular Signalling Volume26, Issue11, November 2014,
75	Yamashiro T	放射線科	Adaptive Iterative Dose Reduction Using Three Dimensional Processing (AIDR3D) improves chest CT image quality and reduces radiation exposure.	PLoSOne. 2014 Aug 25;9(8):e105735

小計 11件

76	Murayama S	放射線科	Spontaneous pneumomediastinum and Macklin effect: Overview and appearance on computed tomography.	World J Radiol 2014 November 28; 6(11)
77	Yamashiro T	放射線科	Iterative reconstruction for quantitative computed tomography analysis of emphysema: consistent results using different tube currents.	International Journal of Chron, Obstruct Pulmon Dis. 2015Feb 11;10:321-7.
78	Yogi A	放射線科	Pulmonary metastases from angiosarcoma: a spectrum of CT findings.	Acta Radiol. 2015 Feb 22. pii: 0284185115571789
79	Ueda S	臨床研究支援センター	A randomised controlled trial for the evaluation of risk for type 2 diabetes in hypertensive patients receiving thiazide diuretics: Diuretics In the Management of Essential hypertension (DIME) study.	BMJ Open. 2014; 4(7): e004576. Published online 2014 Jul 16.
80	Ueda S	臨床研究支援センター	Non-statistical key issues in conducting sensible observational studies to resolve clinical questions.	Circulation Journal Vol.78 (2014) No. 9 Released: August 25, 2014
81	Hyakuna N	骨髄移植センター	Germline mutation of CBL is associated with moyamoya disease in a child with juvenile myelomonocytic leukemia and Noonan syndrome-like disorder.	Pediatric Blood&Cancer Volume62, Issue 3, pages March 2015
82	Akamine Y	薬剤部	Effects of one-time apple juice ingestion on the pharmacokinetics of fexofenadine enantiomers.	European Journal of Clinical Pharmacology September 2014, Volume 70, Issue 9

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限ること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属する場合は、筆頭著者の所属先を記載すること)。

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

計 82件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1)倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	○・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	○・無
• 手順書の主な内容  審査機関、申請種類、委員会組織、審査方法、開催日、申請期限、提出書類、利益相反、 手続手順、審査結果、各種報告書、講習会	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年6回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2)利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	○・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	○・無
• 規定の主な内容  委員会組織、審査方法、提出書類、手続手順、審査結果、各種報告、秘密保持	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年1回

(3)

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年5回
• 研修の主な内容  学外機関の臨床研究センター等から講師を招聘し、臨床研究の基本と研究倫理及び最新の倫理指針等について講義して頂いている。倫理審査委員会への申請希望者は、講習会の受講を必須としている。	

## (様式第4)

## 高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

## 1 研修の内容

【主な研修内容】	【研修受講者数】	【研修指導医数】
・心臓血管外科専門医研修	3人	4人
・外科専門医研修	3人	11人
・HIV患者の診療、及び臨床研究	3人	4人
・産科婦人科専門研修コース	11人	14人
・麻酔科専門医取得コース	8人	9人
・食道・胃・大腸における狭域光拡大 内視鏡による悪性腫瘍の深達度診断	12人	6人
		その他

## 2 研修の実績

研修医の人数	298.08人
--------	---------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

## 3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
藤田 次郎	第一内科	教授	34年	
岩淵 成志	第三内科	准教授	29年	
井関 邦敏	第三内科	准教授	41年	
古波藏 健太郎	第三内科	講師	22年	
大屋 祐輔	第三内科	教授	33年	
渡嘉敷 崇	第三内科	助教	23年	
崎間 洋邦	第三内科	助教	12年	
石内 勝吾	脳神経外科	教授	30年	
前原 博樹	整形外科	講師	17年	
金谷 文則	整形外科	教授	37年	
青木 陽一	産科婦人科	教授	31年	
太田 孝男	小児科	教授	38年	
吉田 朝秀	周産母子センター	講師	19年	
上里 博	皮膚科	教授	37年	
長谷川 昌宏	耳鼻咽喉科	講師	17年	
鈴木 幹男	耳鼻咽喉科	教授	29年	
新垣 香太	耳鼻咽喉科	医員	13年	
我那覇 章	耳鼻咽喉科	講師	17年	
島袋 盛洋	精神科神経科	助教	17年	
垣花 学	麻酔科	教授	24年	
渕上 竜也	麻酔科	講師	21年	
西 啓亨	麻酔科	助教	12年	
吉見 直己	病理診断科	教授	33年	
益崎 裕章	第二内科	教授	21年	
友寄 豊昭	第二内科	准教授	18年	
外間 昭	光学医療診療部	准教授・部長	27年	
新崎 章	歯科口腔外科	教授	32年	

國吉 幸男	第二外科	教授	35年	
照屋 孝夫	第二外科	助教	22年	
永野 貴昭	第二外科	助教	21年	
澤口 昭一	眼科	教授	36年	
斎藤 誠一	腎泌尿器外科	教授	30年	
安次 嶺聰	腎泌尿器外科	助教	17年	
宮里 実	腎泌尿器外科	准教授	22年	
村山 貞之	放射線科	教授	35年	
久木田 一朗	救急科	教授	34年	
西巻 正	第一外科	教授	37年	
國仲 弘一	第一外科	助教	17年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

1. 沖縄液状化細胞診（LBC）研究会 5月27日、8月30日（2回） 延べ33人

2. 第43回九州細胞研修会 沖縄合宿 9月20日～22日 （1回） 延べ186人

3. 血球分離装置を用いた末梢血幹細胞、および顆粒球の採取についての研修

平成26年1月～平成26年12月の期間で20回 3名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

1. 第1回放射線部セミナー『がん拠点病院における放射線治療の現状』／

平成27年7月23日／院内：43人（医師4人、放射線技師27人、看護師11人、医学物理士1人）

院外：15人（医師1人、放射線技師13人、看護師1人）

- (注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。
- (注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
管理責任者氏名	藤田 次郎	
管理担当者氏名	総務課長 金城邦光、医療支援課長 上原葉子、 放射線部長 村山貞之、薬剤部長 中村克徳、看護部長 下地孝子	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録		総務課 看護部 薬剤部 手術部 医療支援課 放射線部	各診療日誌、看護記録は院内情報システム上で共有し、一定期間ずつプリントアウトしてファイリングしている。 診療録は入院、外来別に1患者1ファイル方式で中央管理している。 X線写真はデジタル化後、放射線部サーバーで保管管理し、出力画像は各診療科保存としている。 処方箋は、外来は1週間単位、入院は病棟単位で綴り、薬剤部で保管。 診療録を病院外に持ち出しすることは、『琉球大学医学部附属病院診療情報管理センターにおける診療記録管理運用要項』で禁止されている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	各課・診療科・関連部署で適切に管理している。
	高度の医療の提供の実績	医療支援課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医学部事務部 各診療科	
	高度の医療の研修の実績	総務課	
	閲覧実績	総務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医療支援課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医療支援課 薬剤部	
第規一則号第一に掲げること十體一制第一確項目保各の号状況及び	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	安全管理対策室	各関連部署で適切に管理している。
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	安全管理対策室	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	安全管理対策室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の状況	安全管理対策室	
	専任の医療に係る安	安全管理対策	

第九条の二十第一項	全管理を行う者の配置状況	室	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染対策室	
	医療に係る安全管理を行なう部門の設置状況	安全管理対策室	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	安全管理対策室	

病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	保管場所	管理方法
		院内感染のための指針の策定状況	感染対策室 各関連部署で適切に管理している。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染対策室
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染対策室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の実施状況	感染対策室
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要な情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	M E 機器センター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	M E 機器センター
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	M E 機器センター
		医療機器の安全使用	M E 機器センター

	況	のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	タ一	
--	---	--	----	--

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状	
閲 覧 責 任 者 氏 名	附属病院長	藤田 次郎	
閲 覧 担 当 者 氏 名	総務課長	金城 邦光	
閲覧の求めに応じる場所	管理棟2階	小会議室	
閲覧の手続の概要	閲覧の求めがあった場合、閲覧担当者が個別に対応する。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前 年 度 の 総 閲 覧 件 数	延	0件
閲 覧 者 別	医 師	延 0件
	歯 科 医 師	延 0件
	国	延 0件
	地 方 公 共 団 体	延 0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

## (様式第6)

## 規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容 :</li> </ul> <p>① 医療機関における安全管理に関する基本的な考え方      ② 医療にかかる安全管理のための委員会その他医療機関内の組織に関する基本的事項      ③ 医療にかかる安全管理のための従業者に対する研修に関する基本方針      ④ 医療機関内における医療事故報告等の医療にかかる安全の確保を目的とした改善の方策に関する基本方針      ⑤ 医療事故発生時の対応に関する基本方針      ⑥ 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針      ⑦ 患者からの相談への対応に関する基本方針      ⑧ その他医療安全の推進のために必要な基本方針</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 15 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の主な内容 :</li> </ul> <p>① 安全管理の対策及び教育に関すること      ② インシデント又は医療事故の判定に関すること      ③ リスクマネジメント・マニュアルに関すること      ④ 医療事故等が発生したときにおける事実確認・措置及び対策に関すること      ⑤ 医療事故等が発生したときにおける患者及び家族等への対応に関すること      ⑥ 医療紛争が生じたときの拡大防止に関すること      ⑦ 訴訟が提起されたときの対策に関すること      ⑧ 関係機関等への報告に関すること      ⑨ その他安全管理、医療事故、医事紛争及び訴訟に関する重要事項</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容 :</li> </ul> <p>◆ 第1回 医療機器・医薬品・医療安全職員研修会 (3部署合同)      日時 : 平成26年5月23日 (金)      内容 : 医療安全の基本 -安全な化学療法の実施について-      ①薬剤部 1. 手順書の改訂について          2. 後発医薬品の採用に伴う安全対策について      ②ME機器センター          ・輸液ポンプ使用上の注意点      ③安全管理対策室          ・医療安全指針確認・テスト実施      講師 : ①薬剤部 : 外間 惟夫、与那霸 房子      ②ME機器センター : 小田 正美      ③安全管理対策室 : 加治木 選江、平良 康子</p> <p>◆ 第2回 医療機器・医薬品・医療安全職員研修会 (3部署合同)      日時 : 平成27年2月6日 (金)      内容 : 「医療事故を防止するために」      講師 : 北海道大学医学部附属病院 医療安全管理部 部長      南須原 康行</p>	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 ( 有 ) ・ 無 )
- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :
  - ① インシデントレポートやRMから直接または紙面による報告
  - ② GRM、分析担当者、病院管理者による院内巡視
  - ③ 当該部署及び関連部署からの聴取、カルテビュー
  - ④ 部門のミーティング等に参加
  - ⑤ アンケート調査
  - ⑥ 報道事例を基に、院内の現状把握
  - ⑦ 委員会等（看護師長会、安全RN委員会）参加

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	( 有 ) ( 2名 ) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 ( 名 ) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	( 有 ) ・ 無
・ 所属職員： 専任 ( 4 ) 名 ( GRM : 2名 ( 看護師・薬剤師 ) 事務 : 2名 ) 兼任 ( 18 ) 名 ( 室長 : 1名、 GRM : 4名 ( 医師 ) ) ( 医師 : 4名、 看護師 : 3名、 薬剤師 : 1名、 臨床工学技士 1名、 事務 : 4名 )	
・ 活動の主な内容 :	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 安全管理対策に係る実施状況調査に関すること。</li> <li>② 安全管理対策に係る職員の教育研修及び具体的な指導方法に関すること。</li> <li>③ リスクマネジメント・マニュアルの改正に関すること。</li> <li>④ 医療事故及びインシデントに係る発生原因の調査・分析並びに関係部署に対する指導・助言に関する事。</li> <li>⑤ 医療事故などに係る診療録・看護記録等への記載が正確かつ十分になされているかの確認及び必要な指導に関すること。</li> <li>⑥ 医療事故発生時における患者及び家族に対する説明等の対応状況の確認及び指導に関すること。</li> <li>⑦ 医療紛争の原因の調査及び分析に関すること。</li> <li>⑧ 医療安全管理委員会の資料及び議事録の作成及び保管、その他委員会の庶務に関すること。</li> <li>⑨ 患者相談窓口に関すること。</li> <li>⑩ その他、医療安全対策の推進及び連絡調整に関すること。</li> </ul>
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	( 有 ) ・ 無

(様式第6)

## 院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
・ 指針の主な内容： 1. 院内感染対策に関する基本的な考え方 2. 感染対策委員会の設置 3. 感染対策室及び感染対策実務者会議の設置 4. 職員研修について 5. 院内感染発生状況の把握と報告 6. 院内感染発生時の対応 7. 院内感染対策指針の閲覧に関する対応 8. 院内感染対策の推進	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 11回
・ 活動の主な内容： 1. 院内決定事項について：マニュアル改訂、抗体検査管理システム、感染対策委員会委員の追加 2. 報告事項：耐性菌検出状況、抗菌薬届出状況、血液培養陽性状況、相互チェック・感染対策協議会の報告、アウトブレイク、年度報告と年間活動計画	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 3回
・ 研修の主な内容：  【第1回】 開催日：平成26年7月9日（火） 講師7：①芦塚陵子②仲松正司③上地幸平④潮平英郎⑤武加竹咲子 内容：① 感染対策マニュアルの開き方 ② 当院での抗菌薬適正使用活動について ③ 培養検体の保存方法と提出について ④ 抗菌薬使用届・消毒薬について ⑤ 感染対策指針テスト 参加人数：1331名	
【第2回】 開催日：平成27年1月27日（火） 講師：京都大学医学部附属病院 一山哲教授 内容：「みんなで取り組む感染対策と医療安全」 参加人数：1209人	
【第3回】 開催日：平成27年3月2日（月） 講師：仲松正司、武加竹咲子、健山正男 内容：「MRSAアウトブレイクから学んだこと」「エボラ出血熱－当院で学んだこと－」 参加人数：625人	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の状況	(有)・無 )
・ 病院における発生状況の報告等の整備 ・ その他の改善の方策の主な内容：	

1. 報告

- 1) 細菌検査技師が、週1回のICTミーティングで耐性菌検出状況を報告し、ICTメンバーで情報共有を行う。
- 2) ICTメンバーは、アウトブレイク情報などを感染対策委員会、感染対策実務者会議で報告する。
- 3) 感染対策認定看護師が、日々耐性菌検出状況を確認し病棟へ報告する。
- 4) 手指衛生実施状況、SSI、BSIサーベイランス結果を報告会で報告している。

2. 感染対策の推進のための方針

- 1) 感染対策リンクナース委員会で手指衛生実施状況、SSI、BSIサーベイランスを実施する。
- 2) ICD、薬剤師による抗菌薬ラウンドを行い、適正な抗菌薬使用を推進する。
- 3) ICTメンバーは、感染対策上の問題が発生し場合には、感染対策委員会、感染対策実務者会議、感染対策リンクナース委員会、または院内メールを活用し職員へ情報提供している。
- 4) 耐性菌検出状況の週報を用いて、週1回ICTメンバーでラウンドを実施している。

## (様式第6)

## 医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回

- 研修の主な内容 :

H27年度第1回 医薬品安全職員研修会（安全管理、医療機器合同）

日 時：H27年6月23日（火）17：30～18：30

場 所：臨床講義棟2F大講義室

テーマ：「長期人工呼吸器管理に伴う様々なこと 主として医療安全の側面から」

～DPC病院ではあまり経験されないであろう諸問題～

講 師：国立病院機構 沖縄病院 神経内科医長 リハビリテーション科部長  
経営戦略室長 諏訪園 秀吾 先生

対 象：全職員

\*ビデオによる追加研修会（臨床講義棟2F大講義室）

日 時：H27年6月25日（木）10：30～11：30

：H27年6月29日（月）17：00～18：00

延参加数：1636名

H27年度第2回 医薬品安全職員研修会（安全管理、医療機器合同）

日 時：H27年9月18日（金）17：30～18：30

場 所：臨床講義棟2F大講義室

テーマ：「医療事故調査制度」

講 師：名古屋大学医学部附属病院 医療の質・安全管理部 教授・副病院長  
長尾 能雅 先生

対 象：全職員

\*ビデオによる追加研修会（臨床講義棟2F大講義室）

日 時：H27年9月29日（火）10：00～11：00

延参加数：集計中

③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況

- 手順書の作成 ( (有)・無 )

- 業務の主な内容 :

手順書を作成し院内各部署に配置、また必要があれば改定し改定箇所を差し替えている。実施状況は各部署責任者が手順書に基づいて業務が行われているかをチェックし、また病棟担当薬剤師が定期的に巡回、さらに年2回程度は手順書に基づく業務が実施されているかを、チェックリストを用いて確認・記録している。

④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況

- 医薬品に係る情報の収集の整備 ( (有)・無 )

薬品情報担当薬剤師が、PMDA医薬品医療機器情報ホームページ、電子カルテ上のJUS-DI、製薬会社M Rより収集し、評価・周知している。

- その他の改善の方策の主な内容 :

1) フィルターの薬剤透過性について

輸液用フィルターは不溶物質や異物除去の為に使用することが望ましいが、例外として血液製剤、脂肪乳剤などフィルターを通過しない薬剤やフィルターに吸着される薬剤など注意する薬剤がある。今回インスリン製剤でフィルターを使用したインシデント（No26-1614号）も報告されたことから、薬剤部のDI NEWS 2015年4号に「フィルターの薬剤透過性について」を掲載し注意喚起した。

2) 経管与薬する際に注意する薬剤について

アスピラカリウム製剤を懸濁して経管投与する際にチューブ内で薬剤が詰まり胃瘻を再挿入したインシデント（No. 201500221）が報告された。この事例に対し、病棟担当薬剤師が訪問し対応方法を指導、更に薬剤部から「経管与薬する際に注意する薬剤Top7」を作成し各病棟に配布した。

3) 抗がん剤の血管外漏出に対する対応

壊死性抗がん剤に分類されるドセタキセル投与中の患者で血管外漏出のインシデント（No. 201500217）が発生した。本事例では薬剤部で作成した「抗がん剤の血管外漏出時の対応例」に沿って下記のように迅速な対応がなされた。

- ①刺入部周囲の硬結、腫脹を認め直ちに投与中止
- ②ルート内より残存抗がん剤を吸引し陰圧保持し抜針、医師に報告する
- ③薬剤部常備の抗がん剤漏出対応キットを借用し、マニュアル通りに硬結部位をマーキング後にステロイド皮下注、ステロイド軟膏塗布など処置が実施された。

(様式第6)

### 医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	( <input checked="" type="radio"/> ・無)
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年55回
<ul style="list-style-type: none"><li>研修の主な内容： 人工呼吸器、除細動器、血液浄化装置、保育器、人工心肺関連の取り扱いと点検についての研修および新規導入機器についての取り扱い説明</li></ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>計画の策定 ( <input checked="" type="radio"/>・無 )</li><li>保守点検の主な内容： 院内で使用する医療機器39品目878台を医療機器安全専門委員会で決定し、日常点検（貸出前点検）、使用中点検、定期点検を実施している。</li></ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>医療機器に係る情報の収集の整備 ( <input checked="" type="radio"/>・無 )</li><li>その他の改善の方策の主な内容： PMDA、各種学会からの報告、業者からの不具合情報をME機器センターで収集し、院内使用機器であるかどうかの判別後、各部署に周知徹底を行っている。 重要事項においては、直接病院長報告を行うと同時に、各部署への再教育、点検内容の見直しを行い、院内回覧において全ての職員に周知している。 また、診療に支障がない範囲で院内使用機器の機種統一を図り、取り扱い方法等の煩雑化を減らし、機器使用の安全性を高めようと努めている。</li></ul>	

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期  日本医療機能評価機構 病院機能評価（3rdG:Ver1.1）	
平成27年4月23日・24日受審 認定第JC509-3号 平成27年5月30日～平成32年5月29日	

（注）医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要	
【広報手段】	
・病院ホームページ、病院情報誌ホットライン、大学院・医学部・附属病院概要などで広報活動を行っている。	
【広報内容】	
・診療科部等の紹介 ・職員、専門医、認定医等の紹介 ・特集記事 (インフルエンザ・不眠症・鬱病などの病気に関することや、新規導入機器・施設等の紹介) ・イベント案内 など	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要	
*周術期の患者に対し、歯科口腔外科と手術を実施する診療科が連携して外科手術後の合併症予防のための口腔機能管理を行っている。	
*複数診療科にまたがる手術を要される患者に対し、手術実施診療科だけでなく病理医も含め合同でカンファレンスを行うなど、連携して対応にあたっている。	
*精神科入院患者で、身体疾患を併せ持つ患者に対して、精神科と精神科以外の診療科が連携し、必要に応じて精神科以外の診療科への入院受け入れが可能な体制となっている。	

(様式第8)

琉大医総第316号  
平成27年10月2日

厚生労働大臣

殿

琉球大学医学部附属病院長  
藤田次郎

### 琉球大学医学部附属病院の昨年度の業務報告において提出した年次計画の経過について

標記について、医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）第9条の20第6号口及び第7号口の規定に基づき、次のとおり提出します。

#### 記

#### 1 提出した年次計画の項目

1 紹介率・逆紹介率 ②標榜する診療科 3 専門の医師の配置 ④論文発表

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○を付けること。

#### 2 昨年度および今年度の実績

昨年度提出した年次計画書での報告事項 (実績及び予定措置)	今年度の実績及び承認要件を満たしていない場合の理由
<ul style="list-style-type: none"><li>平成27年2月1日付けで救急科を標榜した。</li><li>論文発表等の向上については、昨年度提出した年次計画書での具体的措置を実行し、一昨年度実績59件であったものが昨年度実績は82件となり、要件となる70件以上を満たすことができた。</li></ul>	

(注) 1 左欄には、昨年度の業務報告において様式第8として報告した事項を記載すること。

2 右欄には、今年度の実績及び、承認要件を満たしていない場合はその理由を記載すること。

#### 3 今後の具体的措置

(注) 本年度も承認要件を満たしていない場合、2で記載した事項以外の更なる措置を記載すること。

(様式第9)

琉大医総第316号  
平成27年10月2日

厚生労働大臣 殿

琉球大学医学部附属病院長  
藤田次郎

### 琉球大学医学部附属病院に関する変更について

標記について、医療法施行令（昭和23年政令第326号）第4条の3の規定に基づき、以下のとおり変更があったので届け出ます。

名 称
変更があった事項及びその内容
○診療科名に救急科（平成27年2月1日）、形成外科（平成27年3月1日）を追加 診療科名の追加 内科、外科、精神科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、 <u>救急科</u> 、脳神経外科、整形外科、歯科、麻酔科、神経科、呼吸器科、消化器科、循環器科、心臓血管外科、病理診断科、 <u>形成外科</u>
○集中治療室の改修 集中治療室の床面積 変更前：185.42m <sup>2</sup> (ICU 7床：168.48m <sup>2</sup> 、ICU（隔離）1床：16.94m <sup>2</sup> ) 変更後：185.42m <sup>2</sup> (ICU 7床：160.16m <sup>2</sup> 、ICU（隔離）1床：25.26m <sup>2</sup> )
○医薬品情報室と薬剤部員室の間の壁を撤去し、医薬品情報室・薬剤部員室へ用途変更 医薬品情報管理室の床面積 変更前：52.08m <sup>2</sup> 変更後：70.08m <sup>2</sup>

- (注) 1 必要がある場合は続紙に記載して添付すること。  
2 開設者名の記入箇所及び「名称」欄には、変更があった場合は、変更後のものを記入すること。  
3 「変更があった事項及びその内容」欄には、変更があった事項を明らかにした上で、その事項についての変更のみを、変更前と変更後の内容を区別して下記により記入すること。  
① 開設者の氏名及び名称の変更については、変更前のもののみを記載することとしても差支えない。  
② 診療科名の変更の場合は、医療法施行規則第6条の4に掲げる診療科名をそれ以外の診療科名よりも先に記入し、削除又は追加された診療科名に下線を付すこと。  
③ 集中治療室、無菌病室等又は医薬品情報管理室の構造設備の変更については、承認申請書に記載することとされている事項に係る変更のみを変更前と変更後のそれぞれを区別して記入すること。なお、集中治療室、無菌病室等又は医薬品情報管理室を有しなくなった場合にはその旨を記載し、固定式の無菌病室や専用の医薬品情報管理室を新たに設けたなどの場合には承認申請書に記載することとされているものと同じ事項について記入すること。

(記載例：50床増床し、集中治療室にペースメーカーを導入した場合)

病床数

変更前：550床

変更後：600床

集中治療室に備える機器

変更前：人工呼吸装置、心電計、心細動除去装置

変更後：人工呼吸装置、心電計、心細動除去装置、ペースメーカー